

第5回住環境・コミュニティ部会と第4回福祉部会 主な意見

《多世代交流拠点について》

●地域が大切にしたい生活機能について

- ・和泉診療所は、伯太校区内の診療所よりも近いため、伯太校区からの利用者がかなり多い。診療所は地域住民にとってアクセスの良いところにあることが魅力
- ・お年寄りが安心して暮らしていくことを考えると、診療所は大事な意味を持つ
- ・図書館機能を考えるにあたっては、地域の求める図書館機能となるよう考えてほしい
- ・にじのとしょかんの機能を、今後どのように地域に落とし込むか工夫がいる
- ・にじのとしょかんによる各小中学校へ本の配布・読み聞かせなどの取組みなど、地域の機能を充実させてきた取組みを調べ、次世代に残すことで地域の伝統になる。それをアピールすることで、地域に人が来るようになり、若返り、活性化し、多世代交流も発展していくことを目指したい。どんな機能が必要か、精査が必要。

⇒地域にとって、診療所や図書館が持つ意味については、地域の実際取組みなども踏まえて、まちづくり構想に反映させたい（事務局）

●施設の管理・運営について

- ・今後診療所をどのように維持・継続していくのか、内容や形式について、今の地域ニーズに合っているかも含めて、今後のまちづくりの中であり方を考えないといけない
- ・施設を建てて終わりではなく、誰が維持管理していくのか、地域に精通した人が運営していけるように考えないといけない
- ・昔と比べて地域を支える仕組みが崩れてきているので、これからつくる新たな施設の運営などをきっかけとして、地域を支える仕組みを再構築する必要がある
- ・自分たちで事業を行い、地域の雇用を増やしていく考え方をしていけないといけない

《将来のまちの姿について》

- ・機能だけでなく、駅前など、見た目として「まちの顔」となる場所にしないといけない
- ・二つの「まちの核」（和泉第一団地・富秋中学校と幸小学校）が左右で分断されているようにみえる

⇒中学校区の中で一か所を整備するのではなく、長いスパンの中で段階的に、「まちの核」同士をつなぐ通りをどうするか等、検討会議で議論していきたい。（事務局）

- ・1度で引越しが可能、コミュニティが崩れないように、という点は入居者にとって大事
- ⇒まちづくり構想の中で、条件として反映させることを考えたい（事務局）

- ・高齢者も多いので福祉に強いまちづくりをしていく必要がある
- ・一番の「まちの核」である和泉第一団地を建替えた際、優先されるのは高齢者だと思うが、子育て世帯が入る余地があるのか

⇒これから団地を建替える中でできる跡地に、新たな住宅ができていくイメージ。（事務局）

- ・ただ住宅をつくっても新たな人は来ない。魅力と思える提案を（食の安全をアピール等）

（まとめ）

離れている「まちの核」同士のつながり方については今後検討会議で議論していく。公共施設の再編をきっかけとして、「まちの核」をつくっていき、新たな施設を地域で運営していく視点や、福祉の目線を取り入れながら、全体的に夢のある形にできるように、まちづくり構想について今後議論していく。部会としての議論はここまでとなるが、今後もまちづくり検討会議の中で引き続き議論していく。その後まちづくり構想の素案が出来てからは、パブリックコメントやアンケートの実施を予定。

《その他》

- ・市の「お互い様サポーター事業」について、ゴミ出しの手伝い、買い物代行、お出かけ支援、図書館の貸出代行、花壇・家庭菜園のお手入れの手伝い等をボランティアとして行っており、御礼として和泉市の特産品とポイントとして交換する仕組み。活動を通じて、周りの人に自分のできることを少しでもやってあげる意識を持ってもらえたら。幸・池上校区で利用したい声も聞くが、サポーターが少なめの状況